

〔正賞 学術文化部門〕

1. 氏名 おばた・ひろき
小畑 弘己氏
2. 年齢 66歳
3. 肩書 熊本大学名誉教授
4. 住所 熊本市

※年齢は2025年11月3日時点



【受賞理由】

土器中の植物の種や害虫の痕跡（圧痕）を、軟エックス線を使って低コストで素早く検出する新たな分析方法を開発。栽培ダイズや日本最古の貯蔵堅果類害虫コクゾウムシの圧痕など数々の発見を重ね、縄文時代に植物の栽培が行われていたことを具体例によって明らかにした。一連の研究成果は、狩猟採集社会とされてきた従来の縄文時代観の見直しを迫っている。

土器表面だけでなく、粘土の内部に残る圧痕の検出も容易にした分析方法は、既に調査済みの土器からでも新たな発見が可能となる「第二の発掘」といえる。また、植物学や昆虫学、成分化学といった考古学以外の知見も取り入れ、食料保存環境など縄文社会の生活の詳細な復元も試みており、土器の研究が中心だった縄文研究に新たな旋風を起こしている。

【主な経歴】

- 1982年 熊本大学法文学部史学科卒業
- 1983年 福岡市教育委員会文化財専門職
- 1995年 熊本大学埋蔵文化財調査室助教授、2011年同大学文学部教授
- 2006年 第15回岩宿文化賞（群馬県みどり市）
- 2012年 第25回濱田青陵賞（朝日新聞社・岸和田市）
- 2012年 第6回九州考古学会賞（九州考古学会）
- 2013年 第3回日本考古学協会奨励賞（日本考古学協会）
- 2015年 第1回日本植生史学会優秀発表賞（日本植生史学会）
- 2017年 第5回古代歴史文化賞大賞（島根県・奈良県・三重県・和歌山県・宮崎県）
- 2019年 第5回日本植生史学会論文賞（日本植生史学会）
- 2021年 第11回日本考古学協会賞大賞（日本考古学会）

著書に「タネをまく縄文人 最新科学が覆す農耕の起源」「昆虫考古学」「縄文時代の植物利用と家屋害虫 圧痕法のイノベーション」など。2026年3月に「縄文コクゾウムシが語る遊動から定住へ（仮題）」（福岡市ブックレット考古学1）を刊行予定

福岡市史編集委員会考古専門部会副部長、宇土市重要遺跡保存活用検討委員会委員、熊本市文化財保護委員会委員、熊本県文化財保護審議会委員、佐賀市東名遺跡重要性検討会委員、日本学術会議会員、鞠智城跡保存整備検討委員会委員、文化庁文化審議会専門委員、特別史跡熊本城保存活用委員会委員、福岡県文化財保護審議会委員